第３学年　保健体育学習指導案

日　時　平成 27 年 11 月 20 日（金）
場　所　熊本県立熊本農業高等学校
授業者　教　　諭　竹元　浩人　（Ｔ１）
　　養護教諭　前田　弥生　（Ｔ２）

１　単元名　　保健・医療機関と医薬品の有効利用

２　単元について

（１）単元観

本単元では，健康の保持増進や疾病の予防のために，バランスのよい食事，適度な運動，十分な休養及び睡眠が必要であることが示されている。また，疾病は主体と環境が関わりながら発生するが，疾病はそれらの要因に対する適切な対策，例えば，保健・医療機関や医薬品を有効に利用することなどによって予防できること，社会的な取組も有効であることなどが示されている。

具体的には，身近にある保健・医療機関の存在を認識し，自分たちの生活にあてはめたり，事例について考えたり，関係を見付けたりするなどして，保健・医療機関を有効に利用することが健康を保持増進させ，明るく健やかに生きていくことができることを理解する重要な単元である。

本時では，「オ 保健・医療機関や医薬品の有効利用」，特に「保健・医療機関の有効利用」について取り上げ，保健・医療機関の機能について知り，それらを有効に利用するための思考・判断を促すことにより、有効利用に対する必要感を高めることをねらいとしている。

（２）系統観

小学校６年		中学１年	中学２年	中学３年		高校１年
心の発達及び不安，悩みへの対処	⇨	心身の発達と心の健康	健康と環境 傷害の防止	健康な生活と病気の予防	⇨	現代社会と健康 生涯を通じる健康

（３）生徒の実態（３年４組男子１５名，女子２３名　計３８名）

事前に行った保健の授業及び健康に関するアンケートでは，「保健の授業が好き，まあまあ好き」と答えた生徒は８４％，「保健の授業は大切だ，まあまあ大切だ」と答えた生徒は９７％であった。また，「自分の心と体は健康である」と答えた生徒は全体の８９％に上り，生徒の約９割は，自分の心と体は健康であると感じている。「診てもらう医院・病院や薬を買う薬局を決めているか」という項目については，約８割が「決めている，ある程度決めている」と答えた。また，「保健センターや保健所を知っている・何をするところか知っている」と答えた生徒は約２５％であったが，「保健センターや保健所を利用したことがあるか」という項目に対しては，ほぼ全ての生徒が「ない」と答えた。このことより，生徒の認識の中では，保健センターや保健所の存在は知ってはいるが，これまで保健センターや保健所を利用したことはないと捉えている。

（４）指導観

【熊本市中体研研究主題】
自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方
～学習内容を明確にした指導と評価の一体化をめざして～

【研究の仮説】３年間を見通した学習内容を明確にするとともに，身に付けさせたいことへの評価の在り方を明らかにし，かつ，基礎・基本，活用力，自ら学び考える力を系統的に育成し，仲間とともに高めあう活動を工夫して取り入れていけば,自ら進んで運動の喜びや楽しさを味わい，生涯にわたって健やかな心と体をはぐくむ基礎が培われるだろう。

（仮説に対しての手立て）

本単元に当たっては，熊本市中体研研究主題より，生徒一人一人の主体的な活動を生かした問題解決学習を展開し，自ら学び運動に親しむ意欲や健康な生活の確立と体力の向上を図り，生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を育てる。

本単元に当たっては，多くの中学生は，これまでの日常生活の中で保健・医療機関を利用したことがあると考えられる。しかし，それらがどのような機能をもっている施設なのかという点までは，把握できていないのが現状である。自分たちの身に回りにどのような施設があり，どのような役割を持っているのか，どうしたら有効に活用することができるのかを考えさせたい。また，授業を通して，保健・医療機関が持つ機能を有効に利用する方法を正しく理解できるようにし，生涯を通じて実践できるようにしていきたい。

視点１「３年間を見通した具体の評価規準」の検証

熊本市の評価規準試案表を基に，単元計画の構造図を作成し，1 時間の授業内容の充実と計画的指導，明確な評価を実施することで指導と評価が一体となるようにした。

視点２　基礎基本の習得→活用力育成→自ら学び考える力の育成

わかりやすい言葉に言い換えたり，視覚で確認させるように掲示方法にも工夫する。話し合い（検証作業）のため班活動を実施し，協力して活動することで自主性や協調性を身につけさせたい。また，養護教諭の専門性をいかし，ティーム・ティーチングによる授業展開を工夫していきたい。

視点３　言語活動を重視した取組

わかりやすい例題を取りあげることで，授業のめあてや課題を自分のこととして考えることができるようにしたり，課題設定場面での導入の工夫をしていきたい。また，班活動では一人一人の意見や考えが大切にされるよう留意し，生徒全員が授業に参加できるようにしたい。また，身近な題材からマトリックスシートを用いて，思考・判断する力を高め，実践及び生涯につなげる活動を取り入れたい。

視点４　健康の保持増進と体力の向上

生徒が，他人事や人任せにするのではなく，自分の健康保持・増進を考えることができるように，身近な出来事や考えやすい事例を用いることで，学習意欲を向上させたい。

人権教育の視点から

班活動の中でそれぞれが意見を出しやすい雰囲気づくりにつとめる。また，言葉や用語が専門的になると難しかったり，聞き慣れた言葉でも意味をよく理解できていなかったりすることも考えられるため，机間巡視を行い個別に支援していきたい。

３　単元の目標

（１）保健・医療機関や医薬品の有効利用について関心を持ち，学習活動に意欲的に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）

（２）保健・医療機関や医薬品の有効利用について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，科学的に考え，判断し，それらを表すことができるようにする。（思考・判断）

（３）保健・医療機関や医薬品の有効利用について，課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解する。（知識・理解）

4　単元の評価

（１）単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
保健・医療機関や医薬品の有効利用について関心を持ち，学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	保健・医療機関や医薬品の有効利用について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，科学的に考え，判断し，それらを表している。	保健・医療機関や医薬品の有効利用について，課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解している。

（２）学習活動に即した評価基準

	十分満足できている状況（A）	おおむね満足できている状況（B）	努力を要すると判断した生徒の手立て
関心・意欲・態度	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組んでいる。 ②保健・医療機関と医薬品の有効利用について，課題解決に向けて話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に取り組もうとしている。 ②保健・医療機関と医薬品の有効利用について，課題解決に向けて話し合いや意見交換などの学習活動に取り組もうとしている。	①② 友だちの意見をしっかり聞き，自分にもあてはまる内容をおさえさせる。
思考・判断	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見つけたりするなどして，内容を整理して説明している。	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見つけたり，書き出したり、表すことができる。	①課題に対する自分の考えを書き出させ，紹介する中で意見を深めさせる。
知識・理解	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，健康の保持増進や疾病の予防には，保健・医療機関を有効に利用すること，また，医薬品は正しく使用することを理解することができる。	①保健・医療機関と医薬品の有効利用について，健康の保持増進や疾病の予防には，保健・医療機関を有効に利用すること，また，医薬品は正しく使用することなどを言ったり，書き出したりしている。	①教科書，保健学習ノート，ワークシートをもとに確認させる。

5　指導と評価の計画

	項　目	ねらいと学習活動	評価規準	評価方法
1	保健・医療機関と医薬品の有効利用①	保健・医療機関の有効利用について，地域には，人々の健康の保持増進や疾病予防の役割を担っている保健所，保健センター，医療機関があることを理解する。また，健康の保持増進と疾病の予防には，各機関がもつ機能を有効に利用する必要があることを，いくつかの事例をもとに考え，自分たちの生活に関連づける。	思考・判断	ワークシート 観察
2	保健・医療機関と医薬品の有効利用②	医薬品には，主作用と副作用があること，用法・用量を守って正しく使用することが大切であることを，資料・ＩＣＴ・実験を通して理解する。また，今後の生活に生かしていこうとする意欲を持つことができる。	関心･意欲 知識･理解	ワークシート 観察 ワークシート

６　本時の学習（２時間取り扱い１時間目）

（１）目標

○保健・医療機関の役割について知り，健康の保持増進と疾病の予防について，各機関がもつ機能を有効に利用する方法を表すことができる。　　（思考・判断）

（２）展開

過程	学習内容・活動	形態	支援及び指導上の留意点・評価	備考
導入 (5)	1　写真を見る。 2　本時の学習内容について理解する。	徹底 (T1)	○身近にある地域の病院や保健センター等の写真を見せることで，本時の学習内容について興味を持たせる。 ○自分たちの生活に密着した保健・医療機関に触れ，本時の学習を提示する。	パソコン 大型テレビ
	保健機関や医療機関を，どのように利用すればよいか考えよう。			
展開 (37)	3　保健所や保健センター，地方公共団体，医療機関が持つ機能について考える。 (1)グループで (2)生徒と教師で 解答・確認 (3)補足・説明 4　保健所や保健センターの利用の仕方について考える。 (1)新聞の中から，保健所や保健センターで利用できそうなものを探す。 (2)グループで仲間分けをする。 (3)発表する。	能動 (T1) 徹底 (T2) 能動 (T1) 徹底 (T2)	このようなときは，それぞれどの機関を利用すればよいだろうか。 ○班で活動する中で自分の経験を基にして考えたり，友達の意見を聞きながら，自分の考えと比較したりして，それぞれの機関と自分との関係を見つけることができるように促す。 ○自分たちの意見と他グループの意見の違いに気づき，多くの意見を引き出せるように働きかける。 ○保健・医療機関についての詳しい説明を聞き，各機関の機能を押さえさせる。また，どのような利用の仕方ができるのかを確認させる。 保健所や保健センターで利用できるものをさがしてみよう。 ○新聞を見て，保健所や保健センターの利用の仕方があることを知り，身近に利用されていることを理解させる。 ○利用方法を仲間分けすることで，その関係性についてお互いに話し合う場を設定する。 【評価】観察・ワークシート 健康の保持増進と疾病の予防について，各機関がもつ機能を利用する方法を表している。 Ａ：有効に	ホワイトボード 事例カード （黒板用） （班用） パソコン 大型テレビ 新聞 プロジェクター 付箋紙 画用紙
まとめ (8)	5　学習を振り返り，理解したことや気づいたことをワークシートに記入する。 6　本時のまとめをする。	能動 (T1) 徹底 (T1)	○本時の学習を振り返りながら，学習カードを記入するよう促す。 ○実生活においても，保健・医療機関を有効に利用するように促す。	ワークシート